

教科目標

視能訓練士科 1 年制

1. 養成目的

「患者様に安全で質の高い医療サービスを提供する」ことを目標とし、同時に患者様が抱える様々な課題を理解し、視能訓練士として最善を尽くす医療人をを目指す。そのために、視能訓練士として主体的に学び続ける高い意欲を持った人材を養成する。

2. 教育目標

現役の指導者・視能訓練士の実習指導を通して、知識面だけでなく医療人としての心構えとコミュニケーションスキルを身に付ける。限られた期間で結果を出すため、優先順位を付けて時間管理の徹底によりセルフマネジメント能力を養う。1年間で視能訓練士の国家資格取得を目指す。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
プログラム ミッション	専門基礎分野	心理学（発達・臨床） / 人体の構造と機能 / 臨床関連医学 / 病理学（疾病学を含む） / 医学概論 / 視覚生理学 / 視器の解剖生理学 / 視能検査機器学 / 視覚生理学実習 / 医療と安全 / 公衆衛生学と関係法規 / 眼科リハビリテーション	330 (21)
プログラム プロフェッショナル	専門分野	基礎視能矯正学 / 視能矯正学 / 生理光学 / 視能矯正学実習 / 眼科薬理学 / 視能検査学実習 / 視能検査学ⅠⅡ / 神経眼科学 / 眼疾病学 / 生理光学実習 / 視能訓練学 / 視能学特論 / 視能訓練学実習 / 実習前教育 / 臨地実習	1140 (47)
合計			1470 (68)

4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
前期	医療人としての基礎科目から眼科専門科目までの知識を学ぶ。一つひとつの科目を体系的に学ぶことを意識し、関連付けながら知識を積み重ねていく。早期から実習授業を行い、検査の実際と知識を結びつける。
後期	前期で学んだ知識・理論・技術を基に「どのような理論に基づく検査か」「どのような疾患が対象か」を理解し説明できる力を養う。病院での臨地実習に繋げ、問診から診断・治療に至る過程を学ぶ。国家試験対策においては出題傾向を分析し、弱点補強を徹底した受験対策授業を行い、国家試験合格を目指す。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
視能訓練士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験

6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
大学病院・総合病院等の眼科 眼科専門病院	視能訓練士	コミュニケーション能力 視機能検査学 視機能訓練学